

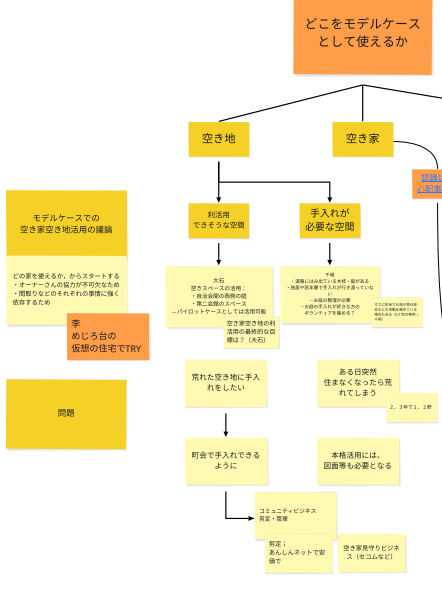
中間ミーティングにて、班の役割を以下のようにまとめた

- ① 活用事例情報収集/情報共有
- ② 活用事例を考えモデルケースをつくる
- ③ 各班のつなぎ役として情報整理

⇒今日は「モデルケースのための実際の活用」について考える

4,6班の中長期的なゴールは何か？

大石
問題を解決する(ほどよい景観を維持する)ことが目的ではないか。
他班と異なり発展を目指すわけではないのではないか。



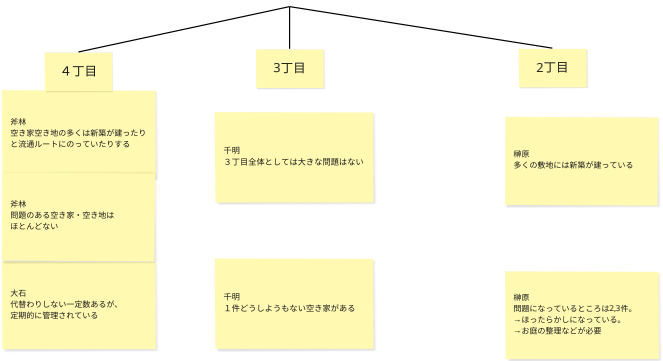
モデルケースでの空き家空き地活用の課題

どの家を見るか、からスタートする
・オーナーさんの能力が不可欠なため
・問題となるような事例の事例に深く存在するため

手
めじる白の
牧場の住宅でTRY

問題

空き地・空き家に関する懸念点



現地視察の必要性

来月には実施。
コロナの状況を鑑みて日程は調整

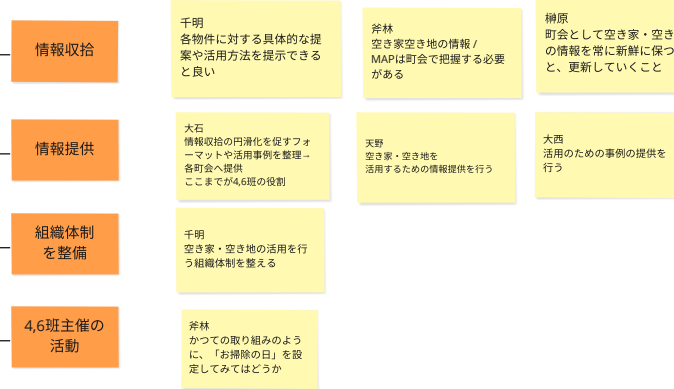
長期ゴール (目指す姿)

斧林
「端正に整った街」を維持する

榊原
空き家空き地があっても魅力あるまち

天野
若い世代が増える中で「活気ある街」を維持することが必要

中期ゴール (すべきこと)



短期ゴール (今できること)

大石：短期目標
・共通認識が持てるようにフィールドに出て調査・視察

大石：短期目標
・フィールドワークに行く場所の選定。
物件の情報を事前に集めてリスト化し、検討

大西
現地視察やヒアリングを通して空き家・空き地の実態調査を行う

空き地空き家の現況

課題解決のため出来ること

ほか・課題

大石
庭の手入れが行き届いていないお宅が地域の景観を悪くすることがあり、対策が必要

→ 3丁目も同様のお宅がある

千明
問題のある空き地は地主と連絡して対策が必要

榊原
人がいなくなってしまうと、急に家が朽ちていくことがあり、代替わりしても管理されるのかという点が重要

榊原
近所づきあいがあればゴーストタウン化しない。
→ 住民ネットワークで、管理されなくなる物件を減らす必要がある